

第 40 回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日 時 平成 18 年 5 月 30 日 (火) 13:30~21:00

場 所 宝塚市男女共同参画センター

出席者 (委員) 松本(誠)、奥西、川谷、畑、村岡、岡田、加藤、佐々木、田村、中川、
浅見、伊藤、草薙、酒井、土谷
(河川管理者) 田中、森田、渡邊、前川、前田、西村、合田
(企業庁水道課) 西川、岩崎、今井、前川
(西宮市) 石橋、岩橋
(河川整備課) 多賀
(事務局) 林、長尾、植田、木本

内 容(協議結果)

1 総合治水対策の検討

(1) 基本高水選択専門部会

基本高水選択専門部会(5月28日開催)の資料、討議経過及び結果について、次回流域委員会(6月5日開催予定)に報告する。

(2) 整備計画における貯留施設の検討

整備計画における貯留施設について協議した結果、下記のことを確認した。

既存ダムの活用にあたっての課題である、湧水リスクは、対象となるダム付近を含む「局地的な湧水」と、H6湧水のような「広域的な湧水」の二つに分けて検討していく必要がある。

丸山ダムの事前放流による治水活用については、既存ゲートでの洪水調節が構造的には可能であり、新たな調節用施設の工事は不要であることが分かった。実施にあたっては事前放流による“空振りリスク”への対応をどうするかを詰める必要がある。

千苅ダム等の治水活用に伴う県営水道による代替水源および利水リスクなどへのバックアップについては、下記の課題がある。

1) 現有施設では送水能力が不足するため、施設の再整備が必要となる。

2) 施設の整備やそれに伴う維持管理に必要な費用を、どこがどのように負担するかの検討が必要である。

千苅ダムの治水活用を整備計画の重要な要素として位置づけることができるかどうかを検討するために、その視点と根拠、方法等についてWT会議は緊急提言書にまとめて、知事および神戸市等に提出する。河川管理者は整備計画で残る検討課題の最優先課題として、実現へ向けての検討資料の作成や関係機関との協議を積極的に行う。

河川管理者は、新規ダムの環境への影響に関する資料を総合治水WT会議に提出するにあたっては、今後の委員会の審議スケジュール及び資料の位置づけを明らかにすること。

(3) 整備計画における流域対策(水田)の検討

整備計画における流域対策(水田)については、継続協議とする。

(4) 堤防の越水対策等堤体強化、および土砂対策の検討

次回総合治水WT会議(6月6日開催予定)以降、超過洪水対策、堤防の越水対策、土砂対策等について協議する。

2 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

総合治水対策

(2) 今後の日程(開催日時)

第41回	6月6日(火)	13:30~
第42回	6月13日(火)	13:30~

当日配付資料

- 資料 1-1 河川整備計画の目標流量と治水対策メニュー
- 資料 1-2 新規ダムに関する環境への影響についての検討フロー(案)
- 資料 1-3 水道施設図
- 資料 1-4 各市水道統計(伊藤委員の資料請求に対する回答)
- 資料 1-5 専兼業別農家数
- 資料 1-6 基本高水選択専門部会 討議の経過
- 資料 1-7 基本高水選択専門部会結果報告
- 資料 2-1 千苅ダムの治水転用化(意見書)(村岡委員)
- 資料 2-2 千苅ダムの治水利用について(提案)(伊藤委員)
- 資料 2-3 提案書 千苅水源地の整備計画での位置づけの検討のために(中川委員)
- 資料 2-4 千苅ダムに関する提案書(佐々木委員)
- 参考 1 豪雨時における水田貯留による流出抑制の提言書(関連資料)